

第76回広島県高等学校総合体育大会-競技別実施要項【空手道】

1 種目 10種目
 団体組手（男・女） 団体形（男・女） 個人組手（男・女） 個人形（男・女）

2 日程・会場

《日程》

第1日 5月27日（土） 8：40 広島地区高校集合（会場準備）

9：00 開館

9：30 監督会議，審判会議

10：30～18：00 競技

第2日 5月28日（日）

8：40 役員集合

9：00 開館

9：15～16：00 競技・表彰

《会場》 広島市 南区スポーツセンター 〒743-0032 広島県広島市南区楠那町 7-31

TEL 082-251-7721

3 参加資格，参加制限

① 「第76回広島県高等学校総合体育大会要項 3参加資格」に準じる。

【第76回広島県高等学校総合体育大会実施要項 2参加資格】

- (1)選手は，広島県高等学校体育連盟規約第5条に規定する学校に所属する生徒で，本競技実施要項により，大会の参加資格を得たものに限る。
- (2)年齢は，平成16(2004)年4月2日以降に生まれたものとする。
 ただし，出場は同一競技3回までとし，同一学年での同一競技出場は1回限りとする。大会参加資格を満たし，日程等が重ならない場合は複数競技の参加を認める。「出場とは登録やエントリーではなく試合への出場回数をさし，専門部が責任を持って調整・確認する。」
- (3)チーム編成において全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混成は認めない。
- (5)転校・転籍後6ヶ月未満のものは同一競技への参加を認めない（留学生もこれに準じる）。ただし，一家転住などやむを得ない場合は，県高体連会長の許可があればこの限りではない。
- (6)出場する選手は，あらかじめ健康診断を受け，在学する学校の校長の承認を必要とする。
- (7)各競技専門部の特質により，別に定める参加資格をもうけることがある。
- (8)参加資格の特例による参加については，広島県高等学校総合体育大会開催準備要項のとおりとする。

②出場制限は次のとおり

種目	出場制限	
男子団体組手(5人制)	1校1チーム（正選手5名，補欠3名）3	
女子団体組手(5人制)	1校1チーム（正選手5名，補欠3名）	
男子団体組手(3人制)	1校1チーム（正選手3，補欠1名）	
女子団体組手(3人制)	1校1チーム（正選手3，補欠1）	
男子団体形	1校2チームまで（正選手3名，補欠3名）	
女子団体形	1校2チームまで（正選手3名，補欠3名）	
男子個人組手	各校5名	ただし，組手は前回大会でベスト8に入賞している学校については，1名の増を，形についてはベスト8に1名いれば1名の増，2名いれば最大2名までの増を認める。前回ベスト8入賞は【資料】1に後掲。
女子個人組手	各校5名	
男子個人形	各校3名	
女子個人形	各校3名	

③団体組手は3人以上であれば出場可能。

④外国人留学生の参加については，団体は正選手の過半数を超えない範囲で出場を認める。個人については参加制限なし。

⑤参加選手の他にマネージャー1名，コーチ1名の参加を認める。

⑥合同チームの参加を認める。申込み時に希望すること。ただし合同の組み方は事務局に一任する。

4 競技及び採点方法

- ①組手・形競技はトーナメント制で行う。ただし形について、予選は得点方式で決勝トーナメントはフラッグ方式のトーナメント制で行う。
- ②予選・決勝で選ぶ形については全国高体連のルールに準ずる。

5 競技規則

組手・形競技の運営は、全国高体連空手道部競技規定ならびに申し合わせ事項（後掲【資料】2）による。

6 申込み

(1) 申込締切日 **令和5年5月9日（火）** メールおよび郵送で申し込むこと

(2) 申 込 先 〒737-0141 広島県呉市広大新開3丁目3番4号

呉港高等学校 島村孝幸

電話 0823-71-9163

Eメール ta-shimamura@goko.ac.jp

※申込メールを受信後、受付完了メールを送ります。返信がなければ事務局までお問い合わせください。**不参加の場合もご連絡ください。**

(3) 宿 泊 各学校ごとに顧問の責任において申し込むこと。

(4) 事故の処理 応急処置は大会会場で行うが、その後は各校で行うこと。

各校で任意の傷害保険に加入しておくことが望ましい。

7 組み合わせ

日 時：令和5年5月12日（金）14：00

会 場：広島国際学院高校

参加者：専門委員（プログラム編成委員）

8 その他

(1)「広島県高等学校体育連盟主催大会等における個人情報及び肖像権に関する取扱について」は、参加申込書の提出をもって、承諾をいただいたものとして対応する。

(2)**競技者は指定されたゼッケンを着用すること**

9 備考

① 大会は「令和5年度全国高等学校総合体育大会空手道競技会」の予選を兼ねる。

② 大会役員には、5月27日、5月28日の昼食を準備します。

③ 顧問の引率のない学校の出場は認められません。

④ 弁当がら等のゴミは、各自・各校で責任をもって持ち帰ること。

⑤ 前回優勝校は、優勝旗の返還をお願いいたします。

⑥ 全国高等学校総合体育大会空手道競技の部への出場権は以下の通り。

個人組手 ベスト2 個人形 ベスト2 団体組手 第1位 団体形はなし

【資料】

1. 個人枠増校（本年度県選手権大会の結果による）

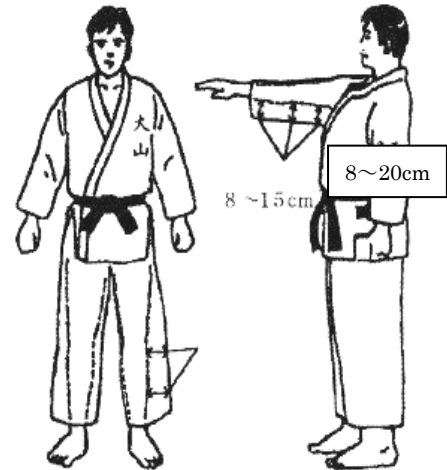
男子個人組手	1名枠	
女子個人組手	1名枠	
男子個人形	2名枠	
男子個人形	1名枠	
女子個人形	2名枠	
女子個人形	1名枠	

2. 広島県高体連空手道専門部申し合わせ事項（県大会）

1. 空手道衣などについて

- (1) 空手道衣は**白無地一色**とし、落書きやフチどりのあるものは禁止とする。
- (2) 帯の色は、**白・茶・黒**のいずれかとする。（競技では、赤・青色の帯を使用する。紐は使用不可）
- (3) ウエストを帯で締めたときの上着の長さは、**腰を覆う程**の長さとし、**ももの中程**までのものとする。
- (4) 上着の袖の長さは最長、**手首まで**とし、**肘から手首の間の中程**より短くてはならない。
また、上着の袖をまくり上げてはならない。
- (5) ズボンの長さは、少なくとも**下肢の3分の2を覆う程**の長さとし、**踝が隠れて**はならない。
また、裾をまくり上げてはならない。
※（4）、（5）は、「**気を付け**」の状態で行う。
- (6) 空手道衣の袖の空き、及びズボンの空きの寸法については、次の通りとする。

- ア. 上着の袖の空きは、袖全体にわたって、袖と腕との間（袖を片側に寄せた状態）が**8～20cm**でなければならない。
- イ. ズボンの空きは、ズボン全体にわたって、ズボンと脚との間（ズボンを片側に寄せた状態）が**8～20cm**でなければならない。



2. 空手道衣の左胸に校名を入れ、その基準は以下のものとする。

- (1) 1文字の大きさは、**5cmx5cm～7cmx7cm**
（縦書で全体 **7cmx15cm** 程度）
- (2) 「高」の文字は必ずしも入れなくてもよい。
- (3) 文字は丸ゴシック・角ゴシック・行書・楷書の範囲とする。
- (4) 文字の色は、黒または紺とする。（ただし、スクールカラーはよい）

大
山

3. 空手道衣の左袖上腕部に県名を入れ、その基準は以下のものとする。

- (1) 1文字大きさは、**5cmx5cm～7cmx7cm**
- (2) 「県」の文字はいれなくてもよい。
- (3) 字体・文字色については、上記2. の(3)(4)に準じる。

広
島

4. 出場選手の頭髪・服装などは、次の通りとする。

- (1) 男子は、スポーツマンらしい頭髪にし、長くても「まゆげ」にかからず、「耳」が見え、「襟足」が見えるように整髪する。
- (2) パーマ・リーゼント・ソリ・ヒゲ・染色・脱色などを禁止する。
- (3) ヘアピンなどの危険物の使用および、リボン・鉢巻きを禁止する。
- (4) 女子の空手道衣の下は白無地のTシャツとする。(ワンポイント・校名は認める)
- (5) 競技者は手足の爪を短くし、相手に傷を与えるような金属または他のものを身につけてはならない。

5. 負傷及び再発防止のための包帯、サポーター、テーピングの使用を、次の条件で許可する。

- (1) 攻撃および防御強化のために使用してはならない。
- (2) 相手に危害を及ぼすようなものを中に入れてはならない。
- (3) 装着不備により、競技をしばしば中断させないこと。
- (4) 色は、**白及び肌色の2色のみ**とし、清潔なものであること。
※あくまでも選手の安全と再発防止のため、軽度の傷害者を対象にしたものであり、常識を逸脱するような内容のもの及び重傷者の出場を許可するものではない。

6. 形競技・組手競技ともにメガネ・コンタクトレンズ(硬)の使用は禁止とする。

但し、ソフトコンタクトレンズの使用は、個人の責任において認める。

7. 服装等の不備は1分間の猶予を与え、直らない場合は当該競技のみ失格とする。

8. 組手競技では、男子5点・女子4点の安全具を必ず着用する。(全国高体達空手道専門部指定)

- (1) ニューメンホーVI, VII
- (2) 拳サポーター(赤・青)…赤・青のコーナーに合わせて使用すること。
- (3) ボディプロテクター…空手道衣の下に着用すること。ひもつきのものは首にかけること。
- (4) シンガード・インステップガード…空手道衣の下に着用すること。
- (5) セーフティカップ(男子のみ)…空手道衣の下に着用すること。
- (6) マウスピースの使用は任意で認めるが、色は**白色及び透明色のみ**とする。

*違反者の参加は出場停止(1分間ルール適用)

9. 組手競技では、ニューメンホーにマウスシールドを必ず取り付ける。

形 競技規定

1. 競技方法について

- (1) 個人戦・団体競技ともに審判員5～7名による得点制とする。
- (2) 第1ラウンドは、「**第一または第二指定形**」とし、個人戦12名、団体競技6チームを残す。
個人戦**第2ラウンド**は、「**得意形1**」とし、上位8名が第3ラウンドに進出する。
個人戦**第3ラウンド**は「**得意形2**」とし、これまで演武していない形とする。
メダルマッチは個人戦は「**得意形3**」、団体戦は「**得意形**」とする。
3位メダルマッチは前ラウンドの順位の低いほうが赤(先攻)、高い方が青(後攻)とする。

第2・3ラウンドの演武順については、抽選により決定する。

1・2位のメダルマッチは前ラウンドの得点の低い方が赤(先攻)、高い方が青(後攻)とする。

- (3)「第一指定形・第二指定形」及び「得意形」は空手競技規定(JKF2019 年度初版)の「付録 17: 指定形リスト」並びに「付録 18: 全空連得意形リスト」から選択しなければならない。
- (4) 団体競技は、**規定の選手数(3人)**を満たさないと成立しない。
- (5) 団体競技に於いて、**登録されたメンバーの枠内**で各回戦毎の選手交替は出来る。
ただし、各回ラウンド毎にオーダー票を提出すること。提出後の変更は認めない。
- (6) 団体形競技の分解の実施については、決定後に通知する。

2. 選手の礼法について

- (1) 審判はコート前方、選手(チーム)はコート後方に整列して開始と締めの挨拶を行う。
- (2) 選手(チーム)は呼び出し後に入場して1人(1チーム)ずつ演武を開始する。選手は得点発表後、コートから退場する。メダルマッチの演武後は、コート後方に赤・青で並び、審判員の1人が勝利者を告げる。
- (3) 名前(学校名)を呼ばれたら**礼をしないで速やかに**コート中央の入口に移動し、**礼をせず**コート内に入る。コートを出る際も同様。礼はコート内での演武開始前と演武終了直後のみ。
- (4) 団体競技の「よーい、はじめ」や「なあって」については、外部的な合図による同時性として**禁止行為**とする。
- (5) 失格は、**当該競技種目**のみとする。

3. 同点の場合

- (1) 個人戦第1ラウンドで3位同点が複数いた場合、再試合を行わず、全員、第2ラウンド進出とする。
- (2) 個人戦第2ラウンドで4位同点となった場合、再試合を行う。演武する形はそれまで演武した以外の形とする。
- (3) 個人戦第3ラウンドで同点となった場合、再試合を行う。演武する形はそれまで演武した以外の形とする。
同点が2名の場合はフラッグで順位を決める。3名以上の場合は得点制とする。
再試合で同点となった場合、再々試合を行う。演武する形はそれまで演武した以外の形とする。
- (4) 個人形メダルマッチで同点となった場合、再試合とする。演武する形はメダルマッチで演武した以外の形とする。
- (5) 団体戦形第1ラウンドで同点となった場合、再試合とする。演武する形は第1ラウンドで演武した以外の形とする。
同点が2チームの場合はフラッグ、3チーム以上は得点制とする。
再試合で同点となった場合、再試合で演武した以外の形で再々試合を行う。
- (6) メダルマッチに進出する両チームの得点が同点の場合はコイントスによって赤・青を決める。

4. 出場者数によってラウンド数や競技方法が変更になる場合、決定後に参加校に通知する。

組手 競技規定

1. 競技時間及び勝敗について

- (1) 競技時間は**2分**とする。
- (2) 勝敗は、**8ポイント差**が生じた場合、又は時間終了の際に得点の多い競技者、同点の場合は先取した競技者、先取がない場合は判定により、又は相手に反則・失格・棄権が課せられたことにより決められる。同点の場合は、審判全員による判定で勝者を決定する(団体競技では、引き分けと宣告し判定は行わない)。

- (3) 団体競技は、**規定の過半数の選手(3人)**で成立する。オーダーは、自由に配置することができる。
- (4) 団体競技に於いて、**登録されたメンバーの枠内**で各回戦毎の選手交替は出来る。但し、各回戦毎にオーダー票を提出すること。提出後の変更は認めない。
- (5) 団体競技に於いて、5人の勝敗が同数の場合、ポイント数により判定を行い、ポイント数も同数の場合は代表決定戦を行う。(代表決定戦は、個人戦と同様に行う)
- (6) 団体競技では、1・2回戦は**先鋒から大将まで全ての試合**を行う。3回戦以降は、団体戦の勝敗が決定した時点で終了とする。
- (7) 一度棄権した選手及び失格となった選手は、以降の組手競技には出場できない。
- (8) 「やめ」の後の技に副審が2本以上旗を挙げた場合、監査が笛を吹いて無効にすることができる。

2. 組手競技に於ける危険回避(事故防止)のための遵守事項

- (1) メンホーは皮膚の一部であり、メンホーの開口部に手を入れたり、掴んだり、押したり、それに関連する動作は全て禁止とし、ペナルティが課せられる。
- (2) メンホーなど安全具の装着は仕様に従い、しっかりと装着すること。

3. 禁止行為の確認

- (1) カテゴリー1(C1)については、**カデット&ジュニアのルール**とする。
- (2) 個人戦において、カテゴリー1での勝ち回数は2回までとする。
- (3) 掴んだまま、何度も不十分な攻撃を繰り返すことは、カテゴリー2の違反である。
- (4) 「無防備行為」とは、次のような状態をいう。
 - a. 攻撃の直後に顔を背ける。(下を見たり、審判の方を見るなど)
 - b. 相手を見ずに突っ込む。(頭を下げて突っ込むなど)
 - c. 反撃を防御出来ないような攻撃をする。
- (5) 逃避行為
- (6) **10カウントルール**を採用する。倒れた選手が10カウントで立ち上がれない場合は、審判団より反則・棄権・失格を決定する。

その他の注意事項

- (1) 競技中に競技者からのタイムの要求はできない。
- (2) 競技者が定位置に戻るときは速やかに戻る。だらしない態度や行動をしない。
- (3) 競技者が定位置に立ったときは、完全に静止し主審の合図を待つこと。
- (4) 競技者がポイントを取ったとき、又は勝ったときのオーバーアクションやガッツポーズを禁止する。(監督や待機選手も同様とする)
- (5) 組手競技において、反則行為をした競技者は主審の宣告の後、一步前に出て相手選手に一礼をすること。
- (6) 競技者が試合コート内で円陣を作り氣勢を上げるなどの示威行為を禁止する。
- (7) 形競技において、「決まった」などの掛け声は自粛する。(応援は拍手で行う)
- (8) 競技者が道衣の上に衣類を着用する場合は、だらしない着方をせず、競技開始時には速やかに脱ぐこと。
- (9) 競技者は指定されたゼッケンを着用すること。

引率・監督・コーチ

- (1) 引率責任者…選手の全ての行動に対して責任をもつこと。
 - ①団体の場合は、校長が認める該当校の職員とする。
 - ②個人の場合は、校長が認める学校の職員とする。
- (2) 監督・コーチ…あらかじめ届け出されたものに限る。校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険(スポーツ安全保険など)に必ず加入していることを条件とする。また、監督は(財)全日本空手道連盟の会員登録者であること。
- (3) 監督の服装はトラックスーツを着用し、学校名を入れることとする。入れる場所、大きさ、字体は問わないが、華美なトラックスーツは避ける(スクールカラーは可)。
- (4) 故障者については、監督の責任で出場を取り止めること。また、体調不良の生徒はすぐに帰宅すること。

県総体 競技運営上の申し合わせ (案)

形試合 (気合あり。形名の呼称は抑えた発声で)

- 個人 第1ラウンド 4コートにて行う 第1・2指定形 3人残り (計12名)
第2ラウンド 2コートにて行う 得意形1 4人残り (計8名)
第3ラウンド 2コートにて行う 得意形2 上位3名メダルマッチ進出 (計6名)
(第2・3ラウンドの演武順は抽選) 第3ラウンド以降は得点2回出し。
メダルマッチ 1コートにて行う 得意形3
(第3ラウンドの得点の高い選手が後攻)
- 団体 第1ラウンド 1コートにて得点制で行う 第1・2指定形 6チーム残り
メダルマッチ 3位決定戦2試合, 決勝戦 (分解なし)

組手試合 (気合あり)